

事業所自己評価シート

令和 5 年度

職員による自己評価

A環境面

現状問題は無いが、今後については状況に応じた適切な対応をする。

B児童への支援内容

日々、利用者の状況共有と振り返りを行う事で、支援方法の話し合いがされている。

プログラム内容が固定されないように工夫されている。

C関係機関との連携

福祉関連機関との関係及び連携は行われているが、学校や学童クラブ等との連携は乏しい。

D保護者への説明責任・信頼関係

一定の基準は満たされている。

E非常対応

マニュアルに沿った対応を実施している。

保護者による評価

A環境面

活動スペースと職員配置数は適切と認識されており、バリアフリー化については必要性を感じられていない。

B児童への支援内容

支援方法とプログラム内容は、ともにニーズに応える事が出来ている。

C事業所からの情報発信

日々の共有や定期的な案内はされているが、保護者同士の交流についてはニーズに応えられていない。

D非常対応

訓練等を実施しているが周知されていない。

事業所内での分析

【共通点】

上記 A・B・C については共通している。

【相違点】

非常時対応について事業所は実施をしているが保護者への周知が不足していて、相違が見られる。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・ 支援内容については利用者のニーズを汲み取ったプログラム内容を実施する事によって、利用者から一定の評価を頂いている。
- ・ 保護者へは都度共有することで共感を得ている。
- ・ 現状に満足せずプログラム内容の展開や保護者共有方法の向上に努めていく。

事業所の改善点

- ・ 保護者参加型プログラムは開催しているが、保護者同士の交流は少ない。
- ・ マニュアルの作成及び訓練の実施は行っているが保護者へ伝わっていない。
- ・ 障がいのない子供との活動は少ない。

事業所の改善への取り組み

- ・ 保護者参加型のプログラム開催時に保護者同士の交流を増やすとともに、保護者間交流や保護者会等の必要性を周知していく。
- ・ 連絡事項や案内時に丁寧かつ具体的な説明に心掛ける必要がある。
- ・ 今年度実施ができたので機会を増やしていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・ 保護者から一定の評価をいただいていると認識できたので、療育の方向性や支援方法について間違いがないと再認識できた。
- ・ 保護者や児童から相談・共有・希望等を伝えやすい環境づくりに努めなければならない。
- ・ 満足度は高い評価を得ることができたが項目によってはどちらとも言えない評価が散見されるので、改善に取り組んでいく。
- ・ 今回の分析及び検討を踏まえて、利用児童と保護者のニーズに応えることのできるよう、強みを活かしつつ支援内容の向上と各種改善に努めていく。

事業所名 LEIF 横浜南

担当者 宮城 圭